

<p>【技術の名称】 3Q-Wall 工法 -各種ブロックを用いた耐震補強工法- (改定 5)</p>	<p>性能証明番号 : GBRC 性能証明 第 02-06 号 改 5 性能証明発効日 : 2011 年 1 月 23 日</p> <p>【取得者】 株式会社大林組</p>
--	---

【技術の概要】

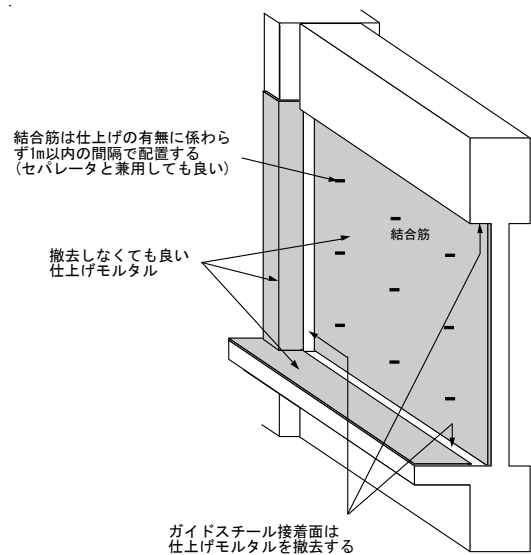
本技術は、コンクリートブロックおよびガラス繊維強化プラスチックブロック (以下、FRP ブロックと略記する) を用いた耐震補強工法である。本工法の特徴は、ガイドスチールと称する鋼製枠を既存骨組柱、梁の内側各辺にエポキシ樹脂を用いて接着接合するか、またはそれに加えてあと施工アンカーを打設して両者を接合し、ガイドスチールに沿ってコンクリートブロックまたは FRP ブロックあるいは両ブロックを併用して組積する点である。本技術は、2002 年 7 月 2 日に GBRC 性能証明 第 02-06 号を取得し、2004 年 7 月 6 日の改定では、コンクリートブロックを組積した増設耐震壁のほか、コンクリートブロックを組積した増設袖壁および FRP ブロックを組積した増設耐震壁を適用範囲に追加し、2005 年 3 月 1 日の改定 2 では、コンクリートブロックを組積した開口付き増設耐震壁の実験資料を追加するとともに、2005 年 11 月 1 日の改定 3 では、袖壁部にコンクリートブロック、スパン中央部の壁に FRP ブロックを組積し、それらの袖壁部と中央部壁を一体化した増設耐震壁を適用範囲に追加している。また、2009 年 7 月 7 日の改定 4 では、低強度コンクリート既存骨組の補強への適用性、ならびに既存壁面にモルタル仕上げを残してコンクリートブロックを組積した増厚壁および既存腰壁上部に FRP ブロックを組積した増設耐震壁を適用範囲に追加し、今回の改定では、設計要領で用いる用語を統一した。

【技術開発の趣旨】

従来の増設耐震壁の補強工事では、多数本のあと施工アンカーの施工に伴う騒音、振動や施工性など、工事に際して種々の問題が発生する。本工法は、これらの問題の解消または軽減を意図して開発されたものである。

【性能証明の内容】

本工法によって構築される増設耐震壁および増設袖壁は、それぞれ申込者提出の設計要領書で提示している終局耐力および変形性能 (耐震診断において用いる靱性指標 F 値) を有すると判断される。



既存壁面にモルタル仕上げを残して良い部分



既存腰壁上部に FRP ブロックを組積した増設耐震壁

【本技術の問合せ先】

株式会社大林組技術研究所 担当者 : 増田安彦
 〒204-8558 東京都清瀬氏下清戸 4-640 TEL : 042-495-1013 FAX : 042-495-0904